



有田史談会 月例通信

新年のご挨拶

会長 鶴 一樹

新年おめでとうございます

この度、分不相応ではあります、が会長という大役を引き受けさせてもらいました。

有田史談会の発足から来年4月で丁度10年になります。会の目的は歴史的遺産を調査、研究し、会員個々の歴史認識の向上を図るとともに、後進を育成しつつ会員の親睦を図ることを目的とするとあり、今後も会員の方々と共に専念する所存です。

私は江戸中期の庶民の暮らしに興味があって本を読んでいます。江戸では「薦重」の時代。平賀源内、喜多川歌麿、葛飾北斎など、庶民がしつちやかめつちやか生きていた時代。1750～1830年ぐらいで場所は有田。窯の煙が方々から立ち昇っている。焼き物の町、有田の窯元いや窯焼きさんと絵描きさん、細工人の暮らし。給金はいくらもらっていたか？家はどんな暮らしぶりか？どんな食事をしていたか？クオリティ高くしっかり調査し、会報の執筆に備え今から意気込んでいます。

前回の会報誌に続き、2冊目の会報誌が発行されることを期待し、会員の皆様と共に史談会がさらに充実していくことを祈念し、会長就任の挨拶といたします。

江戸の暮らし
衣・食・住



会報原稿1/20までに！

半期ぶりの会報発行の時期になりました。会員の皆様の中には、待ちに待ったとばかりに腕まくりで執筆作業に入られた方もおられると思います。毎回のことながら何を書こうかと悩んでいる方もおられる事でしょう(笑) そんな方には、近況報告などはいかがでしょうか？ この一年を振り返り、こんなことがあった、あんなこともあったと振り返りながら、記憶の断片を辿りながらの作文はお薦めです。まあ、今年一年の記憶ですから何とか思い出せるはずです。家族のこと、自分の健康について、趣味について、同窓会の思い出話、今年の我が家家の10大ニュース、ペットの話、地域のニュース、老人会の話題、あげたらキリがありませんが、題材は無限です。ちなみに私は前回の会報に釜山旅行を投稿しましたが、今回は記憶を頼りに3泊4日のソウル旅行を執筆中です(笑) 毎回他愛もない内容ですが、枯れ木の賑わいとご容赦頂ければ嬉しいです。会員の皆様からの原稿が続々と舞い込むことを期待しておりますが、お正月は気楽に構えて推考頂き、1/20の〆切日までに事務局までお届け頂きますようお願い申し上げます。



編集長の独り言！

年末に入り、れきみん応援団の解散問題が浮上し少々困惑しています。ここ数年で団員の高齢化が進んできたことに加え、活動も停滞しています。発足から12年経ち岐路を迎えていますが、3月の年度末までに結論を出したいと話し合っています。尾崎顧問が資料館館長として在籍された折から、長年に亘り親交を頂いた縁で「れきみん応援団」を立ち上げ協働での活動を続けて来れたことは、私たちにとっても楽しい良い思い出に残る活動になりました。改めて感謝を申し上げます！